



KUMAMOTO GREEN Rotary-Club



2013-
2014年度
テーマ

国際ロータリー 「ロータリーを实践しみんなに豊かな人生を」 R.I.会長 ロンD・バートン

地区方針 「良き友を得てロータリーを学び奉仕を实践しよう」 R.I.2720地区 ガバナー 赤山 武興

熊本グリーンR.C. 「魅力あるクラブにしよう」 熊本グリーンR.C.会長 山下 隆生

■例会日：毎週月曜日 18:30~19:30
■例会場：熊本市中央区城東町4-2 熊本ホテルキャッスル
TEL096-326-3311

■創立：平成元年2月22日 ■会長：山下 隆生 ■幹事：河島 一夫 ■会報担当：長野 義文
■事務所：熊本市中央区城東町4-2 熊本ホテルキャッスル内
TEL096-354-4521 FAX096-354-4053 E-mail:kgrc@io.ocn.ne.jp

国際ロータリー 第2720地区 熊本グリーンロータリー・クラブ週報

【2014年3月17日】

第1123回

2013-2014年度 第30回

【例会】

1. 開会・点鐘 18:30

2. 食事と交歓

「我等の生業」 (ロータリーソング)

来訪者紹介

■ 米山奨学生 曹 娥さん

友情の握手

会長スピーチ (山下 隆生 会長)



本日は、米山奨学生の曹娥さんが最後の週になります。三月分の奨学金の贈呈と最後のお話になります。終わってから、お別れ会も予定しておりますので皆さん一年間の思い出を語りましょう。

の思い出を語りましょう。

会長スピーチの時間なのですが、先週末行われた2013-2014年度国際ロータリークラブ第2720地区大会の報告をいたします。

今回の参加者は、河島幹事・仙波会員・松村会員と私の四名だけでした。他クラブは、周年事業のご案内もあるかもしれませんが多数の参加でし

た。ある意味、地区大会は、今年度の決算とも言えるお祭りのようなものです。せっかくの機会なのでたくさんの参加でわがクラブも盛り上がりましょう。行けば、楽しい時間なので又来年の地区大会は参加したいと思います。

本日の例会後半は、地区大会の報告の時間になっておりますが、私が私用で報告できませんので、細かい点は、参加者にお任せいたしまして、全体の感想をお話いたします。

人吉の地で1000名ほどの参加者で、第6分区のメンバーが力を合わせ、会員及び奥様や家族の方で人情味のあるおもてなしを受けました。

初日の大会第一回本会議では、今年の赤山ガバナーの方針にも掲げられていた各クラブでの「私の思い出に残るロータリー体験」の地区大会版として、各分区から一名ずつが発表されました。まだ、ロータリー暦が浅い私にとっての先輩たちの体験談やはたまた私より新人の方の体験談など、笑いや涙がでる素晴らしい時間でした。

大会第二回本会議での締めとして「竹田恒泰」さんの楽しくもあり勉強になる記念講演は疲れた身体に新たな刺激を与えてくれました。

今回参加して残念に思い、自分で反省した点があります。

各種表彰という時間があり、残念なことにわがクラブはなにも表彰されませんでした。表彰を狙っての会員増強や出席率などは好ましくないかもしれませんが、会員増強に関しては、3名以上で表彰になるので今年度の2人というのは少し残念に思いました。

卓話
予定

- 3/24 「若年層とのコミュニケーションについて」
吉岡りゅうこ 氏(キャリアカウンセラー・YMCA講師)
- 3/31 「観桜例会」(於: 水前寺公園「泉里」) ★例会場所変更
- 4/ 7 瑞鷹(株)副社長 吉村圭四郎 氏(予定)
- 4/17(木)「熊本北RCとの合同例会」 ★4月14(月)→4/17(木)に例会変更

グリーン・クラブの例会日がきても、出席するかどうか決めるには及ばません。というのは、私にとって出席は決まりきった事だからです。これは、ロータリーに入会したとき受入れた義務の一つです。

しかし、来年度の田中会長エレクトの時は、自然と表彰される部門があるようです。勤続年数による永年皆勤表彰者です。クラブの表彰ではありませんが、わがクラブは本年度25周年を迎えました。必然的に次回の地区大会においては、永年皆勤表彰者(25年以上40年未満)に何人か表彰されるはずで、驚いたことに地区全体でもこの賞を貰ってる人数は19人しかいません。熊本地区においては5人です。わがクラブがいかにか永く居心地がいいクラブなのかは来年わかるのです。

このように地区大会も何度か出ていたり、会長や委員長を経験をすると色んな知り合いにも再会し、ロータリーの友愛の輪が広がります。来年度は、大分ですが、親睦旅行で来てるクラブもあるようなので、わがクラブも多数の参加をしてお祝いいたしましょう。

幹事報告 (河島 一夫 幹事)

■ 報告事項(その他のロータリー関係)

①「第2770地区(埼玉南東)・第2720地区(大分・熊本)RYLA(ライラ)委員会 交流会のご案内

日時 4月20日(日)19:00～

場所 「城見櫓」

会費 5,000円

★埼玉より阿蘇市YMCA研修施設に地区の青少年関係役員とローターアクト役員等が来られるので是非、こちらの地区のロータリアンと交流したいとの申し出があり、会長かローターアクト委員長等どなたか是非ご参加下さい。

②「天草中央RC創立30周年記念式典」のご案内
日時 5月17日(土)

記念講演14:00～14:45(外園一人氏「特に高齢者・経営者に大切な3K」)／式典 15:00～15:45

記念公演16:00～16:50(フォーテスト一座「天草特攻隊」)／祝宴 17:40～19:30

場所 式典・講演会「天草市民センター」／祝宴「ホテルアレグリアガーデン天草」

会費 10,000円

③「日出RC創立30周年記念式典」のご案内

日時 6月15日(日)13:30～16:30

式典13:30～15:00／記念講演15:00～16:20「日出町と皇室」木下崇俊氏／祝宴 16:30～18:30

場所 「別府湾ロイヤルホテル」

会費 10,000円

■ 例会取止め・変更

<変更>

【熊本城東RC】

3月31日(月)の例会は、お花見例会のため、同日18:30～より、城見櫓で行います。

【熊本西RC】

4月1日(火)の例会は、花見例会のため、同日18:30より行います。場所は未定です。

【熊本北RC】

4月10日(木)の例会は、観桜会の為、同日18:30より桜の馬場城彩苑の中の「桜道」にて行います。

【熊本東南RC】

4月23日(水)の例会は、創立30周年記念例会のため、4月19日(土)15:00より熊本ホテルキャッスルにて行います。

出席報告

(中島 光司 クラブ管理運営委員)
(出席担当長)

	会員総数	26名	出席率
3月17日	出席免除会員数	1名	72.00%
	計算上会員数	25名	
	出席会員数	18名	
3月3日	前回の出席会員数	16名	64.00%
	メイクアップ数	0名	
	修正出席会員数	16名	
メイクアップ済み会員及びメイクアップ訪問先			
なし			

委員会報告

① 3月分米山奨学金授与

報告者:山下隆生会長から曹娥さんへ

米山奨学生の曹娥さんによる最後の挨拶とお礼。

又、米山奨学生の修了証を見せて頂き、会員の皆様へ手作りのぎょうざを持って来て頂き、皆で頂きました。



スマイル

(蒼 孝之 クラブ管理運営委員)
(スマイル担当長)

●山下 隆生 君、河島 一夫 君

①「一昨日と昨日、人吉の地区大会に行ってきました。中々盛大な会でした。」

②「曹娥さん1年間ご苦労様でした。この日本での経験を生かして良い人生を過ごされる事を御祈念申し上げます。」

●田中 純司 君

「米山奨学生の曹娥さん1年間ご苦労様でした。昨日の地区大会出席の皆様お疲れ様でした。欠席のお詫びも合わせてスマイルします。」

●松村 秀逸 君

「曹娥さん、いよいよお別れです。本日、手づくりぎょうざを頂きありがとうございます。中国に帰国されてからも体に気を付けて(特にPM2.5には..)頑張ってください。お礼にスマイルします。」

●荒木 一之 君

「本日で曹娥さんが当クラブに来られるのが最後との事。中国での活躍を祈ってスマイルします。」

●趙 健次 君

「曹娥さん、3月27日に中国へ帰られるとの事で寂しいですよ!!1年間の日本での勉強、忘れないうで下さい。中国の人達に優しい日本の方達の事を伝えて下さい!!!」

●大友 利行 君

「体調不良について、地区大会を欠席して御迷惑をお掛けしました。今日も早退させて頂きませぬ。曹娥さんの送別会、残念ですが出席できません。今後の御活躍を御祈念申し上げます。」

●中島 光司 君

①「仙波会員、テープありがとうございます。帰って聞くのが楽しみです。」

②「曹娥さんギョーザありがとうございます。とても美味しいです。これからの健康と幸福を願っています。」

●仙波 洋八 君

「創立25周年祝賀会の合唱テープが出来上がりました。絶望と希望が味わえますので、まずは自宅で聴いて下さい。「花は咲く」は自慢して、友人、知人、町内会で吹き迴して下さい。「ウ・ヴォイ」は押し入れの奥に仕舞って、家の宝にして下さい。いずれにせよ楽しい記念として記憶に残れば大成功だと思います。皆さんご苦労様でした。」

●栗山 義則 君、長野 義文 君、蒼 孝之 君

「皆さんこんばんは、曹娥さん1年間ご苦労様でした。中国に帰ってからも元気でグリーンロータリーの事を思い出して、中国と日本の架け橋になって下さい。」

3. 例会プログラム

卓話者

河島 一夫 幹事

仙波 洋八 会員

松村 秀逸 会員

演題

「地区大会報告」



河島 一夫 幹事

「心に残るロータリー体験発表」について、全員で12名の発表がありましたが、その中で印象に残った話をご報告致します。

①中津中央ロータリークラブの安田雅豊会員

韓国のテジョンロータリークラブと姉妹提携して、毎年高校生の交換留学を数名ずつ行っている。期間は約一週間ぐらいのホームステイで、最初は、言葉が通じないので、お互いに大変のようだが、一週間も滞在していると、帰国する時は、涙のお別れとなる。

ただ単に、姉妹クラブでの親睦に留まらず、交換留学生を行うことにより、両国の理解を行えて、将来の国際親善にも繋がるものと思った。今年で13回になるそうです。

②豊後高田ロータリークラブ、三上達美

平成7年度から、インターアクトの学生と空手部の部員とで、餅つきをして、市内の老人保健施設に正月の鏡餅を寄付している。

③別府ロータリークラブ濱田建次

奨学生のカウンセラーを行った。二人の世話をしたが、一人目は別府国際大学の韓国人の四年生だったが、奨学金をもらうようになって三度の食事ができるようになったことが一番感謝し、帰国して就職する予定が、日本に残り横浜で働いてること。二人目は、中国人で別府大学の二年生の男の学生だったが、ご両親が日本での生活を

の男の学生だったが、ご両親が日本での生活を大変心配されていたようでしたが、奨学生になって日本にとっても感謝されていた。ご両親も例会に出席されたとのこと。また、お母さんが目が悪かったようで、会員の眼科医が検査や治療をされたとのこと、大変感謝されたとのこと。

⑥荒尾ロータリークラブ城康彌

交換留学生の話で、クラブからは、最初は、荒尾高校の学生をアンカレッジ高校との交換留学をおこなった。平成2年8月25日、平成3年7月17日まで留学生を受け入れ、荒尾からは平成2年8月10日、平成3年7月8日までアンカレッジでの留学であった。彼女が帰国した時には、まだアンカレッジの留学生は荒尾にいたので、お互いの歓送迎会を行って盛りあがった。

10 宇土ロータリークラブ作守順子

リスボンでの世界大会での話だったが、その前に二番目の主人を亡くし、続けて一人の息子も亡くして、失意の中にあっただが、世界大会に出て、沢山のロータリアンからの感動を与えてくれて、立ち直るきっかけをつくってくれた。DVD をつかっての話であった。

12 本渡ロータリークラブ 穰山ジョニー

本渡から16歳の時に留学生としてオーストラリアにやってきた女性と知り合い、その後結婚して、日本に養子として28年前に本渡に来たとのこと。25年前にロータリーに入会してから、オーストラリアとの交換留学を行っているとのこと。ずっと国際奉仕委員長です。オーストラリアとの交換留学生はお互い19名の38名になるとのことです。近年は二ヶ月間の留学となってオーストラリアからは1月、2月、本渡からは、7月、8月の二ヶ月間としているとのこと。現在も続けているとのことでした。



仙波 洋八会員

地区大会は年1回開催のお祭りとも考えられますので、(一方、地区協会「は勉強会」、楽しみを十分に意識した演出でした。竹田恒泰氏の講演を含め、充実した大会であったと思います。しかし、参加料金が登録料含めて16,000円というのは少し高いのではないかと思います。2週間前に「地区クラブ研修リーダーセミナー」が開かれましたが、各クラブのリーダークラスの人が集まった会議で「お金が掛かり過ぎる」「会議が多過ぎる」との意見が多く出されましたが、ロータリーの在り方(方向性)が、曲り角という表現で検討されている状況の中では、ひと工夫が必要なのではないかと思いました。



松村 秀逸会員

私は、2日目のみの出席でしたので、2日目ありました竹田恒泰氏の記念講演の部分の報告を行います。

まず、世界37ヶ国の若者に愛国心についてのアンケートをした結果、普通は60%~70%の人が自国を守る為戦うと答えるが、日本人が最低の15%で、その次はドイツの30%であるとの事。それは敗戦国であるためで、歴史は否定され、誇りを踏みにじられ、神話を封印され腰抜けにさせられている。

日本の高校生は建国について知らない人が多い。知っている人はわずか2%で、これは世界でも希である。アメリカやフランスはほぼ100%の方が自分の国の建国について知っている。なぜ知らないのかというと学校の教科書で教えないので知らないのである。建国の経緯を知らないのは世界中で日本だけで、異常な国との事。しかし最近では東日本大震災があり、その光景をニュース等で放映され、世界の人々に日本人の道德心の高さを評価され、褒められ、少しづつ変わりつつある。自国を誇りに思う人が増えてきたとの事でした。外国で、例えばアメリカでハリケーンのあとはショッピングセンターで年寄りや子供たちまでが家族で略奪しているのを見かけたし、又、フィリピンの地震のあとは支援物資の輸送車を襲ったりしているので、他国と日本と文化は違うとの事でした。

日本国を守るため「ポツダム宣言」を受託した。もともと日本は敗ける事がわかって、アメリカと戦争をやったのではなく、勝ち目があったとの事で、敗因は2つ考えられる。まず第1にハワイ真珠湾攻撃のあと、上陸作戦をやらなかった。もし、上陸していたら戦況が変わり、そこからアメリカ本土を攻撃すればアメリカはその時、日本と講話条約を結び、日本と組んでロシアと戦う予定だったとの事でした。

もう一つの失敗はミッドウェイ海戦における日本の作戦がヘタで失敗したのが敗因。アメリカもギリギリの戦いだったと言っているそうです。この2つを失敗していなければ日本は短期決戦でアメリカに勝っていただろうとの事。その後、GHQの管理となり、日本を二度と立ち上がれなくするために日本人を骨抜きにさせられる、完全武装解除と精神的に2度と戦争を起こさないために学校における神話を無くす。この所のいきさつを古事記についての本の中に書いてありますので下記に引用して紹介します。

<本から引用>

では、今なぜ「古事記」なのか。その答えは二十世紀を代表する歴史学者であるアーノルド・J・トインビー(1889-1975)の遺した次の言葉に端的に現れている。

「十二、十三歳くらいまでに民族の神話を学ばなかった民族は、例外なく滅んでいる」この言葉は、民族の神話を学ぶことが民族存立の要件であることを示唆するもので、現在の日本人が日本神話を学んでいないことが、どれだけ大きな問題を孕んでいるかを教えてくれる。

かつて我が国が連合国の占領下にあったとき「歴史的事実ではない」「創作された物語に過ぎない」「科学的ではない」などの理由で、「古事記」「日本書紀」(最後の文字をとって「記紀」と総称する)は「学ぶに値しないもの」とされた。それだけではない。それらは、日本が軍国主義に向かった元凶とされ、さも有害図書であるかのような扱いさえ受けてきた。しかし、記紀を封印し、国民の意識の中から抹消することは、日本の無力化を意図する

連合国の対日戦略であったことにそろそろ気づくべきだろう。連合国の日本占領の最大の目的は「日本が二度と再び欧米に対して戦争を起こさないように、骨抜きにすること」だったはずだ。すなわち、連合国は日本人と日本神話を引き裂くことによって、近い将来日本人が日本人の精神を失い骨抜きになることを意図していたのである。

生きたカエルをゆでようとしても、カエルは鍋から飛び出してしまうという。熱くないうちにカエルを鍋に入れて、徐々に加熱しなくてはならないらしい、このことは「ゆでカエル症候群」と呼ばれている。もし連合国が、占領中に皇室を廃止し、政府を解体し、あらゆる神社仏閣を焼き払い、公用語を英語に切り替えようとしたら、日本人は強く反発したことだろう。本当に1億人が竹槍を持って戦った可能性もある。しかし、神話を教えないという方法は、日本を「百年殺しの刑」にかけたようなもので、その意図は分かりにくい。そのため、日本人はその意味が分からず、いまだに「ゆでカエル症候群」にかかったままなのである。

その後、GHQが退去したあと「日教組」を作って教育の中で管理する方法を取った。だから今の教科書では尊敬する天皇の歴史を教えるはいけない事になっている。だから高校生が建国の事は知らないのです。何をどういうふうに勉強するかが大事で方向を間違った人が増える。頭の良い人ほど顕著でその典型が田島陽子さんです。私はアメリカが嫌いとかではありません。今後はアメリカ人と手を組み、世界平和の基礎とならなければいけない。そして、アメリカは10年前より日本は大国の役割を果たせと言っているがいまだに生きた茹でカエルの様に分かって無い。もともと日本人は地球の中の神を信じ、自然から来た考えにより、人のために他のために働き、他者の喜びで幸せを感じる国民性である。

例えば、戦後シベリア抑留でウズベキスタン強制労働をさせられた日本兵が手抜きをせず建築した建物が、大地震の際ただ1棟残り、ウズベキスタンの人々は日本人を見習うように子供に教育しているとの事。又、お金を貯めても墓場に持って行けるわけでもなし、お金を生かす事により、又、支援する事で人の喜び事で幸を感じると思う。ロータリー精神と同じですというお話でした。1時間40分のお話を纏めるのは難しいですがこれで報告を終わります。



2014.3.17 曹娥さんを囲んで集合写真

ポリオ撲滅

1979年、国際ロータリー（R I）は、フィリピンの600万人の子どもたちに、ポリオの予防接種を行う活動を始めました。

1985年2月、ロータリー創立80周年に当たって、R Iは、ポリオ・プラス計画を発表しました。日本国内では、募金総額40億円を最終目標として、1986年7月から5年計画のポリオ・プラスの募金キャンペーンを開始。1986年7月から1991年6月までの5年間で、約49億円の寄付金を集めました。

最初のキャンペーンが発表された当時、日本では、ロータリーが外に向かって資金集めをするということはほとんどなく、加えて、全世界的な活動を展開することには、大きな抵抗がありました。I serveかWe serveか、個人奉仕か団体奉仕か、至るところで議論されたものですが、約束を守るのがロータリアン、日本でも、最初に公約した金額をはるかに超えた資金を集めました。

しかし、ポリオ撲滅は最初に考えていたよりはるかな困難を伴い、また、多額の資金が必要でした。最初のキャンペーンの後も、さまざまな形で資金集めが行われてきました。

2007年には、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団からポリオ撲滅のために1億ドルが、2009年1月には2億5,500万ドルのチャレンジ補助金がロータリーに寄付され、世界のロータリアンは「ロータリーの2億ドルのチャレンジ」を展開。2012年6月30日の期限を待たず達成し、ゲイツ財団は新たに5,000万ドルの寄付を発表しました。

しかし、資金不足はまだまだ深刻です。R I事務総長のジョン・ヒューコ氏とマルガ夫人は、11月17日、ポリオ撲滅の資金集めを目的として、111マイル（約180km）の自転車レースに参加しました。日本でも、東京中央ロータリークラブの木村清信会員が、毎年マラソンに出場して資金集めをしています。今年は、6月にサロマ湖100キロマラソンに、「END POLIO NOW」ロゴ入りのTシャツを着て走り見事に完走、多額の寄付を集めています。

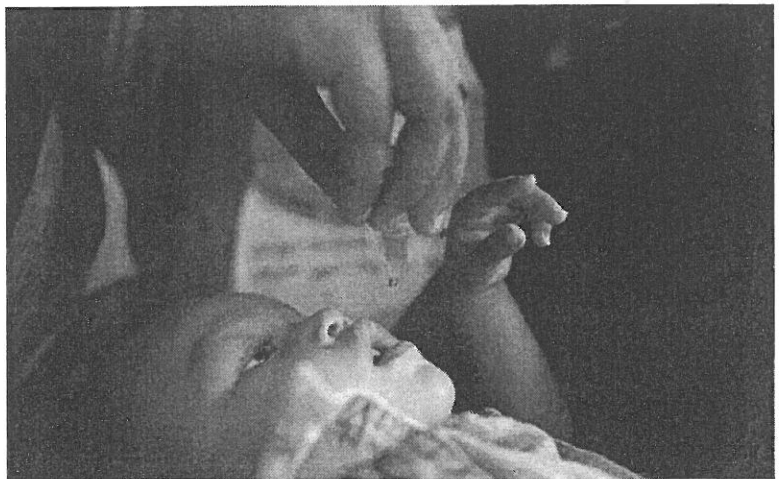
1988年、世界保健機関（WHO）、ユニセフ、アメリカ疾病センター（CDC）、そして国際ロータリーが団結して「世界ポリオ撲滅計画（GPEI）」が発足しました。現在、これらの組織、各国政府、研究機関などが協力して、ポリオ撲滅活動に取り組んでいます。

1988年当時、125か国にポリオが常在し、33万件の新たな感染の症例が確認されていましたが、ロータリーとパートナー組織の努力の結果、ポリオ常在国だったインドは、2012年1月13日までの一年間、ポリオの新たな発症が報告されず、2月25日、WHOは、同国を常在国のリストから除外しました。現在、常在国は、パキスタン、アフガニスタン、ナイジェリアの3か国になりました。ポリオ撲滅はあと少しのところまでできました。

世界からポリオがなくなると証明されるまでに、ロータリーによる全世界ポリオ撲滅活動への寄付額は12億ドルを超えるであろうと言われています。これに加え、地元のロータリークラブや地区によって行われてきたポリオ撲滅活動のための現物拠出や個人的貢献は、数百万ドルにも上ります。日本からも多くのロータリアンやロータリーの家族たちが現地に赴き、全国統一接種日にワクチン投与などの活動をしています。

わずか60セント（約50円）で、1人の子どもをポリオから守ることができるのです。子どもたちの命を守る活動に参加ください。

『友』編集長 二神 典子



© Rotary International